

JAグループ鳥取自己改革推進レポート（9月号）

1. JA全農ととりの取り組み

① 鳥取を代表する秋の味覚「二十世紀梨」のセレモニーをリモートで実施

8月27日、県特産「二十世紀梨」の全国一斉販売を迎えた。初競り前のセレモニーは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため産地と東京・大阪をリモートで結んで行った。

JA全農ととり運営委員会の栗原会長が「糖度・食味・食感どれを取っても消費者の期待に応える事の出来る素晴らしい梨に仕上がった」と産地からあいさつした。

大阪会場には来阪した鳥取県の平井知事本人と等身大パネルが並び、ダジャレを交え秋の味覚をPRした。



② Instagramにて鳥取くだものプレゼントキャンペーンを実施

Instagramにて「鳥取くだもの応援隊」アカウントを開設。鳥取県でしか栽培されていないオリジナル品種の梨「新甘泉」のプレゼントキャンペーンをはじめ、柿の「輝太郎」・「王秋梨」のさまざまなキャンペーンを実施する。



③ 畜産委員会を設置

8月20日に第1回目となる畜産委員会を開催。畜産事業の更なる拡大安定に向けて、今後の開催方針や新型コロナウイルス感染拡大防止対策を踏まえた中での県共進会の開催方法などを協議した。

2. JA鳥取信連の取り組み

令和2年度JAバンク鳥取窓口ロールプレイング県大会開催

9月9日、ホテルセントパレス倉吉において、第6回目となる「令和2年度JAバンク鳥取窓口ロールプレイング県大会」を開催した。

本大会には各JAの予選大会を勝ち抜いた8名の窓口担当者が出場し、事前に用意された設例に基づき、それぞれの個性を活かしながら、お客さまとの会話の中からライフイベントやニーズに合った商品のアプローチ方法等、窓口セールススキルを競った。

お客さま役を信連職員とし、実際の窓口対応に即した対応が披露された。同じ設例であってもセールスする商品や話法は出場者により異なっており、日頃の窓口対応の成果を發揮していた。

また、各JA支店・支所よりビデオメッセージが届けられ、緊張を和らげつつも気合のこもった応援をいただき、白熱した大会となった。競技の結果、JA鳥取西部 本所 赤尾慎太郎さんが優勝に輝いた。

今後も、JAバンク鳥取全体の窓口対応の向上により、組合員・利用者からより一層評価され、満足度を向上していく取り組みを行っていく。



3. JA共済連鳥取の取り組み

① スマート農業実習機材・備品を鳥取県立農業大学校へ寄贈

JA鳥取いなば・JA鳥取中央・JA鳥取西部・JA共済連鳥取は、スマート農業技術に関する教育環境充実を目的に「ロボット草刈機」、「ソーラー自動かん水システム」等、授業・実習で使用する機材・備品を鳥取県立農業大学校へ寄贈した。

寄贈先の学校からは「新しいスマート農業を学びながら、基礎知識・技術の習得に努め、未来を切り開く農業者を目指します。」といった感想が聞けた。

今後もJA共済では、地域の発展・振興に役立つような地域貢献活動を行っていく。



寄贈式の様子（令和2年8月25日）
左から久保田学生会長、地原校長、影井会長、森山本部長



ロボット草刈機によるデモンストレーションの様子

～鳥取県立農業大学校への寄贈品～

- ◆ロボット草刈機
- ◆ソーラー自動かん水システム
- ◆おんどとり

（ハウス等で使用する防水温度計測器）

他 計11品目

② 交通安全啓発資材を鳥取県交通対策協議会へ贈呈

秋の全国交通安全運動 9月21日～30日に先がけ、9月8日に鳥取県庁において「自転車用リアライト」9千個、「反射タスキ」1万4千本を鳥取県交通対策協議会（会長：平井知事）へ贈呈した。

贈呈に際して、JA共済連鳥取の影井運営委員会会長が「秋の全国交通安全運動にあわせて、交通事故未然防止に役立てていただきたい」と挨拶した後、同協議会会長の平井知事へ目録の贈呈を行った。



目録を平井知事（左）に贈る影井会長

贈呈した自転車用リアライトは、県内全ての高等学校の自転車通学生へ配布され、反射タスキは各市町村を通じて交通安全運動期間に高齢者へ配布される。

JA共済連鳥取では、平成22年から交通事故撲滅を目指す一環として、同協議会を通じて高齢者の方等へ交通安全啓発資材を贈呈し、交通事故の未然防止に取り組んでいる。

自転車用リアライト



シリコンバンドで取り付けやすく広範囲型の赤色ライトが点灯・点滅して暗がりの道でも安心。

反射タスキ



軽量で反射幅も広く、車のヘッドライト等が当たると明るく反射して、着用者の存在をドライバーに知らせる。

4. JA鳥取県中央会の取り組み

① 報道機関に情報発信

9月16日、農業・食料に関するJAの取り組みやJAの総合事業等について理解を深めることを目指し、JAグループ鳥取と報道機関との意見交換会を開いた。初の開催で、各JA・連合会の代表や報道機関各社の幹部ら32人が出席し、相互理解を通じた情報発信の重要性を共有した。

意見交換会では、JAグループ鳥取の10組織がトップ広報を行い、JAの理念や食料安全保障の確立の取り組み方針などを説明した。組合員と地域住民の暮らしを守るため、総合事業を通じて生活に深く関わることや、農業者・地域と一緒に「夢のある元気な県農業・地域づくり」を目指していることを訴えた。

JA鳥取県中央会の栗原会長は、「世論形成に大きな影響力を持つ報道機関に対し、JAグループの取り組みの本質を理解していただくような情報発信に努めたい」と話した。

② 農業系高校で「協同組合組織論」の講座を実施

8月27日、鳥取市の県立鳥取湖陵高校で「協同組合組織論」の講座を開いた。同校の他、倉吉農業高校でも9月10日に開いたほか、県内農業高校の智頭農林高校、日野高校でも同じ講座を開く予定。

この取り組みは、次代を担う生徒に対しJAの理念や総合事業などについて伝えることで、JAへの理解促進や進路選択に役立ててもらおうことを目的にしている。

受講した生徒は「JAの目的や相互扶助について知らなかった。助け合いの心を大切にしながら、JAをもっと知りたい」と話した。

今後、小中学校へも活動の幅を広げ、協同組合への理解促進に努めていく予定としている。

